

地 理 総 合

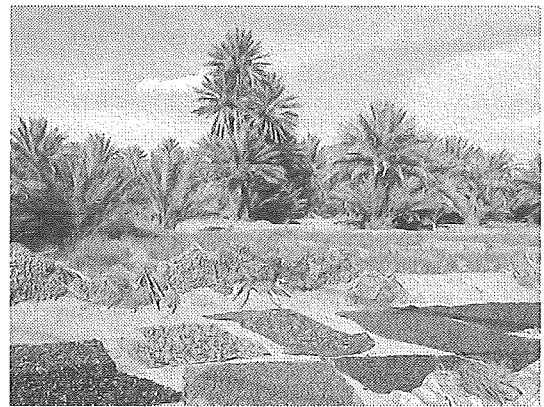
(解答番号 101 ~ 116)

第1問 乾燥・半乾燥地域の生活文化の多様性に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(配点 13)

問1 次の写真1は、北アフリカのモロッコ内陸部でみられる伝統的な建物や農業の様子を撮影したものである。写真1に関することがらについて述べた文章中の下線部①～④のうちから、適当でないものを一つ選べ。 101



a



b

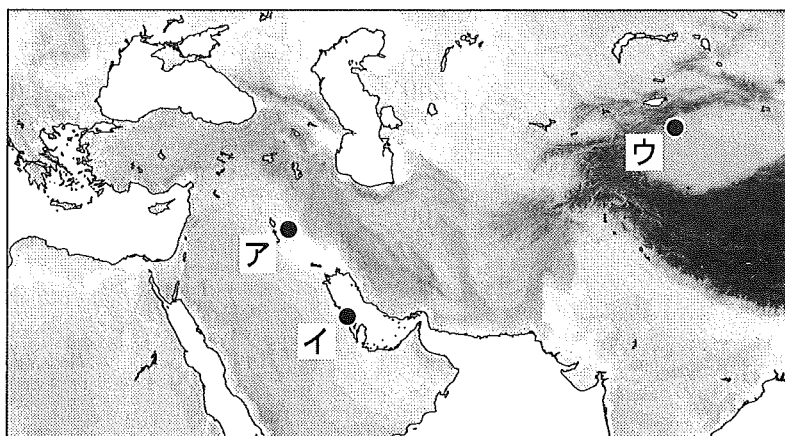
写真1

写真1のaにみられる建物の素材には、①日干しレンガが主に用いられている。また、建物の窓は小さい。その目的の一つは、②砂やほこりの侵入を防ぐことである。

写真1のbにみられるナツメヤシは、③伝統的にオアシスで栽培されている。収穫されたナツメヤシの実は、④大部分が工業用として輸出されている。

問 2 乾燥・半乾燥地域では、生活用水の確保が重要な課題の一つである。次の図 1 は、西アジア周辺の地形を示したものであり、後の文 A～C は、地点ア～ウ 付近のいずれかにおける水の利用について述べたものである。ア～ウと A～C との組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

102



色の濃い部分ほど標高の高い地域を示している。
国土地理院の資料により作成。

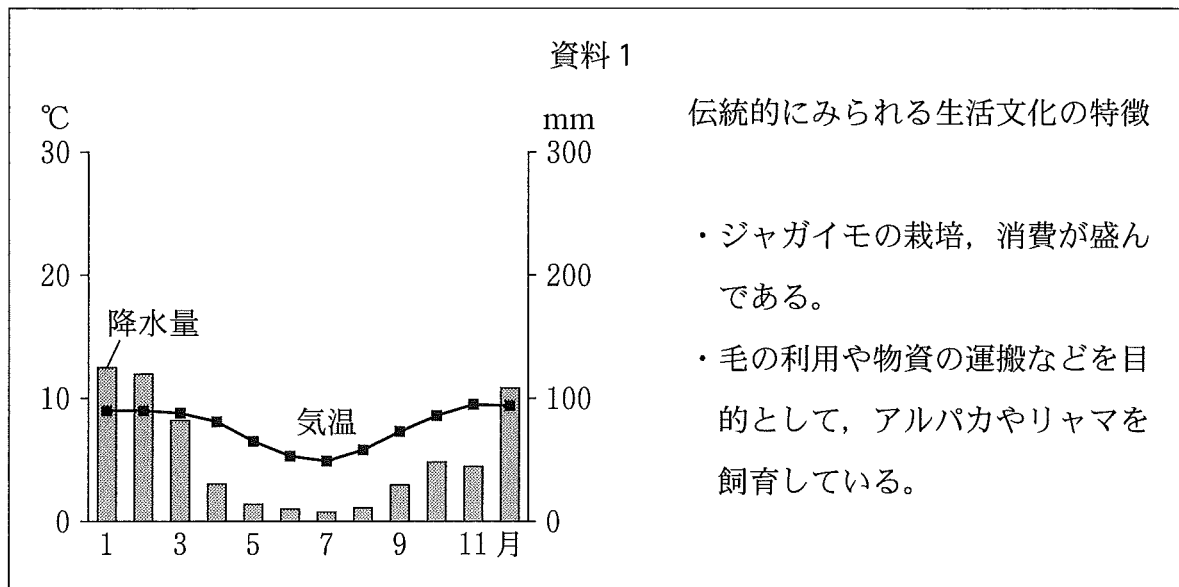
図 1

- A エネルギー資源が豊富に得られることを背景として、施設内で淡水化した水を主に利用する。
- B 高山の雪や氷河が季節による気温変化によって融け出すことで、流量が大きくなる内陸河川の水を主に利用する。
- C 上流の湿潤地域を水源とする外来河川から、ダムや水路によって得た水を主に利用する。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	A	A	B	B	C	C
イ	B	C	A	C	A	B
ウ	C	B	C	A	B	A

問 3 緯度や標高の違いによって、降水量の少ない地域の生活文化は異なる。次の資料 1 は、後の図 2 中の地点①～④のいずれかについて、雨温図と生活文化の特徴を示したものである。資料 1 が示す地点として最も適当なものを、図 2 中の①～④のうちから一つ選べ。

103



気象庁の資料などにより作成。

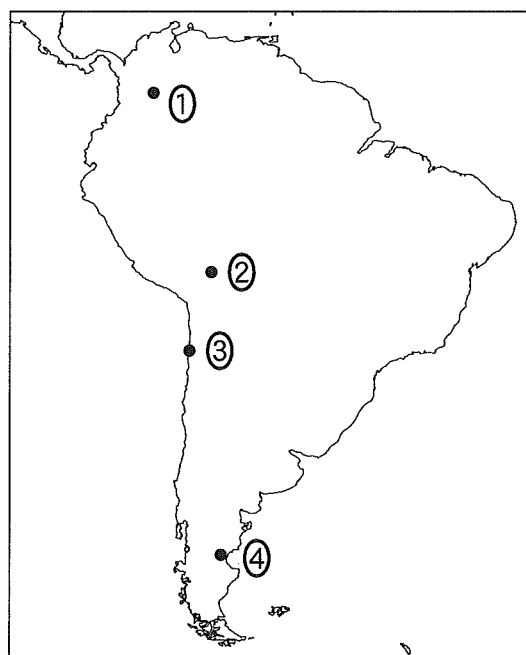
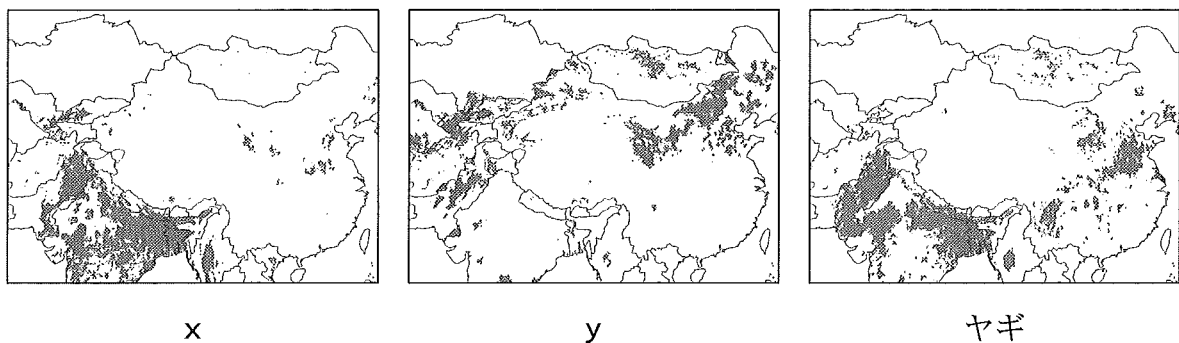


図 2

問 4 乾燥・半乾燥地域では、その気候や地形に適した家畜が飼育されている。次の図3は、アジア周辺において、いくつかの家畜について1 km²あたり50頭以上存在する場所の分布を示したものであり、xとyは、牛と羊のいずれかである。また、後の文章は、図3に関することがらについて述べたものであり、空欄Eには、語句力とキのいずれかが当てはまる。羊に該当する図と空欄Eに当てはまる語句との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

104



牛には水牛を含む。統計年次は 2020 年。FAOSTAT により作成。

图 3

牛、羊、ヤギは、乾燥・半乾燥地域において重要な家畜である。近年、モンゴルではヤギの飼育頭数の増加が顕著であり、その要因の一つとして、(E)があげられる。

力 高級衣料の原料繊維需要の高まり

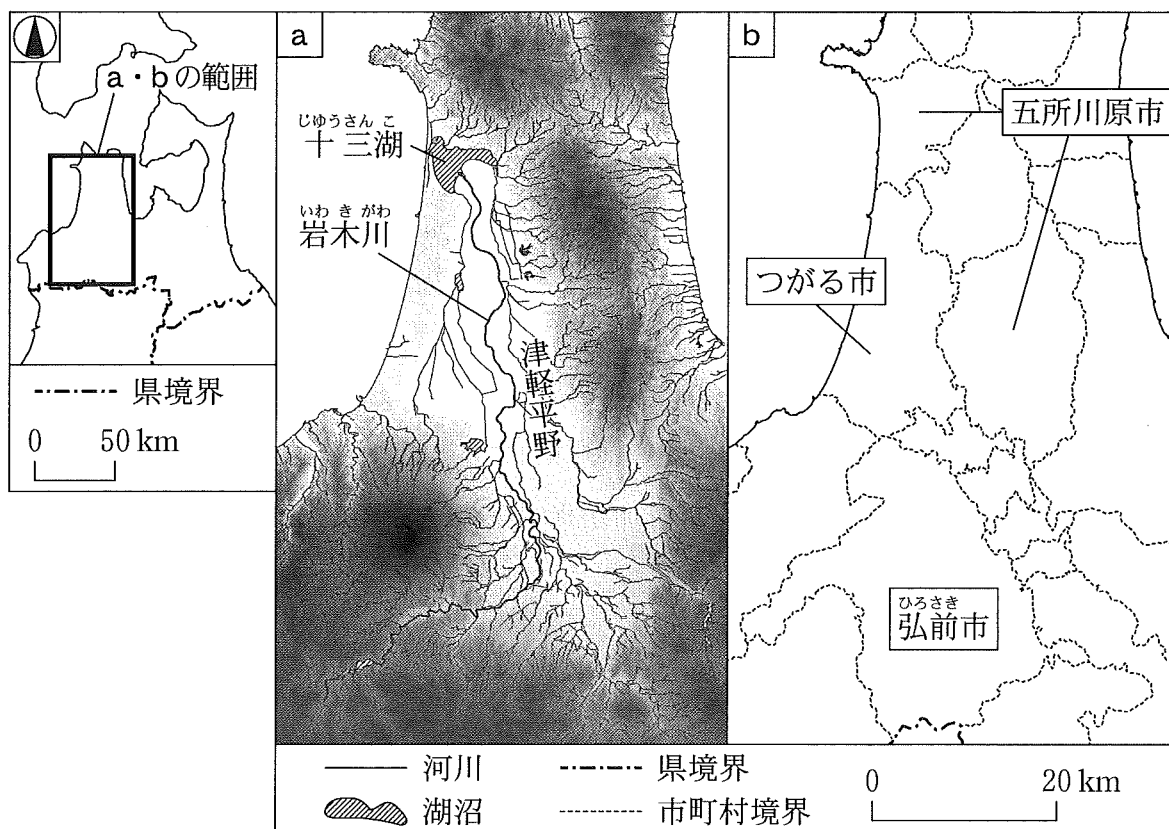
キ 砂漠化の抑制に向けた対策の広がり

	①	②	③	④
羊	x	x	y	y
E	力	丰	力	丰

第2問 青森県^{ごしやがわら}五所川原市の高校に通うコウジさんたちは、津軽平野^{つがる}とその周辺地域の第一次産業と自然環境とのかかわりに注目して、地域調査を行った。この地域調査に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(配点 12)

問1 コウジさんたちは、次の図1に示した津軽平野とその周辺地域における農業について調べた。後の資料1は、この地域における農地や農作物についてコウジさんたちがまとめたものであり、ア～ウは、米、野菜、果実のいずれかである。品目名とア～ウとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

105



色の濃い部分ほど標高の高い地域を示している。
五所川原市は市域が二つに分かれている。
国土数値情報などにより作成。

図1

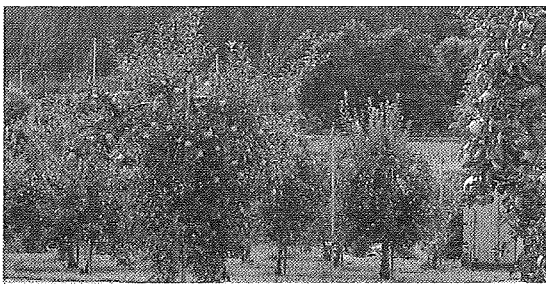
資料１ 津軽平野とその周辺地域の農地や農作物について



岩木川の下流域は、かつては農作業時に腰まで沈むほどの低湿地帯であった。



津軽平野の海岸付近に広がる砂丘では、1970年代に大規模な農地造成が行われた。



^{さんろく}山麓などでは、この地域の特産品であるリンゴが大規模に生産されている。

それぞれの市における農業産出額に占める各品目の割合
(単位：％)

	ア	イ	ウ	その他
五所川原市	48.6	39.4	7.4	4.6
つがる市	37.4	12.8	34.9	14.8
弘前市	5.8	89.0	3.4	1.8

四捨五入のため、数値の合計は100％にならない場合がある。統計年次は2022年。農林水産省の資料などにより作成。

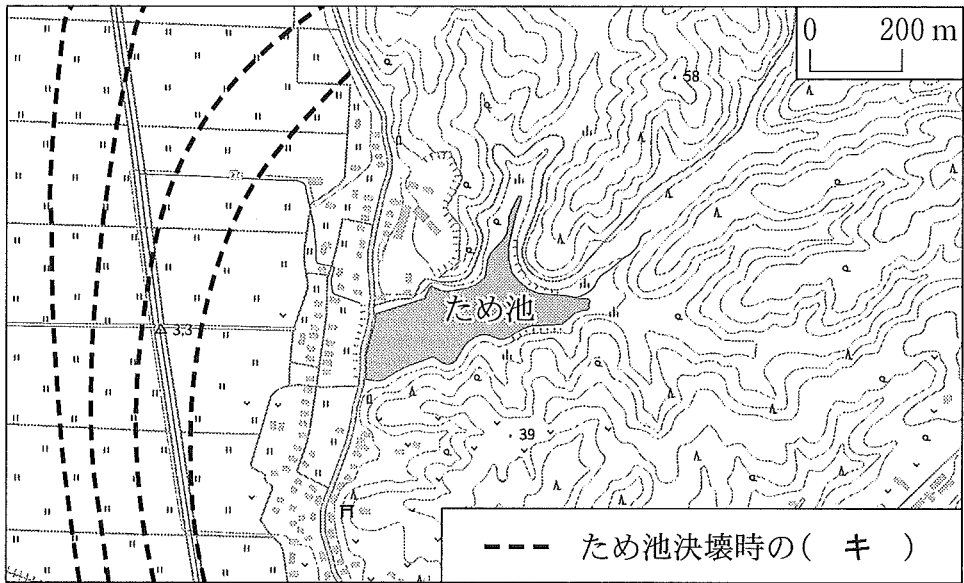
	①	②	③	④	⑤	⑥
米	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
野菜	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
果実	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

出題範囲：地理総合

問 2 コウジさんたちは、津軽平野における灌^{かんが}漑に興味をもち、ため池について調べ、次の資料 2 を作成した。資料 2 中の空欄力とキに当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

106

資料 2



この地域では、灌漑用水の確保のために、近代以前から多くのため池が造られてきた。図中のため池は、(力)造られた形態となっており、現在も灌漑に利用されている。ため池には大雨や地震による決壊リスクがあり、この地域のため池の中には、明治時代に決壊したものもある。図中のため池についてもハザードマップが作成されており、決壊時の浸水深や浸水までの時間などが示されている。図中の破線は、ため池決壊時の(キ)を示した等値線であり、ため池から離れた破線ほど値が大きくなる。

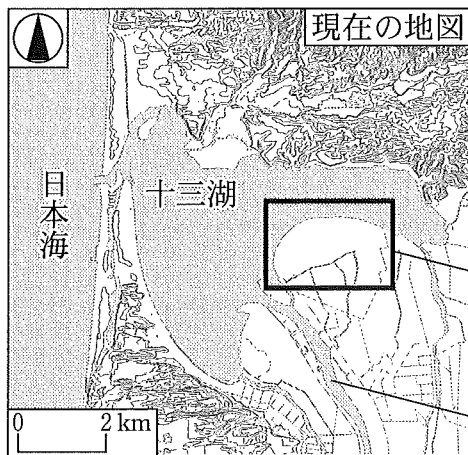
地理院地図などにより作成。

	①	②	③	④
力	谷口を せ 堰き止めて	谷口を 堰き止めて	平坦な土地を 堤で囲んで	平坦な土地を 堤で囲んで
キ	浸水深	浸水までの時間	浸水深	浸水までの時間

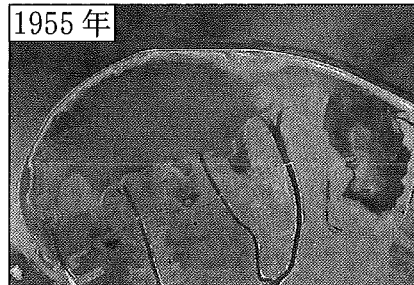
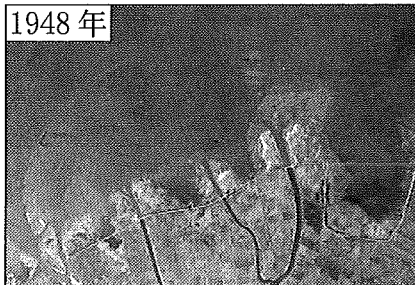
問 3 次にコウジさんたちは、シジミ漁で有名な十三湖を訪ねた。次の資料 3 は、十三湖におけるシジミ漁の持続可能性についてコウジさんたちがまとめたものである。資料 3 中の下線部①～④のうちから、誤りを含むものを一つ選べ。

107

資料 3



シジミは、ジョレンと呼ばれる網状のかご型の漁具を使用して漁獲される。



十三湖は汽水湖であり、①淡水と海水が混ざり合っている。十三湖の南東部については、現在の地図と過去の空中写真とを比較すると、②土地造成がなされ、陸地の形状が変化したことが分かる。

十三湖は日本でも有数のシジミ産地であり、シジミ漁を持続的に行えるように様々な取組みが行われている。例えば、ジョレンの網の目を規定の幅以上とすることで、③小さい個体の漁獲を抑制している。十三湖のシジミは、④低価格での販売を目的に、「十三湖産大和^{やまと}しじみ」として地理的表示保護制度に登録され、他産地のシジミとの差別化が図られている。

地理院地図などにより作成。

出題範囲：地理総合

問 4 最後にコウジさんたちは、津軽平野とその周辺地域で生産されたリンゴの消費地について県庁の職員から話を聞いた。次の表 1 は、日本からのリンゴの総輸出量に占める割合について、国・地域別に示したものである。また、後の図 2 は、台湾におけるリンゴの国別輸入量を示したものであり、凡例 A と B は、日本とチリのいずれかである。コウジさんたちが話し合った会話文中の空欄サとシに当てはまる語句と記号との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

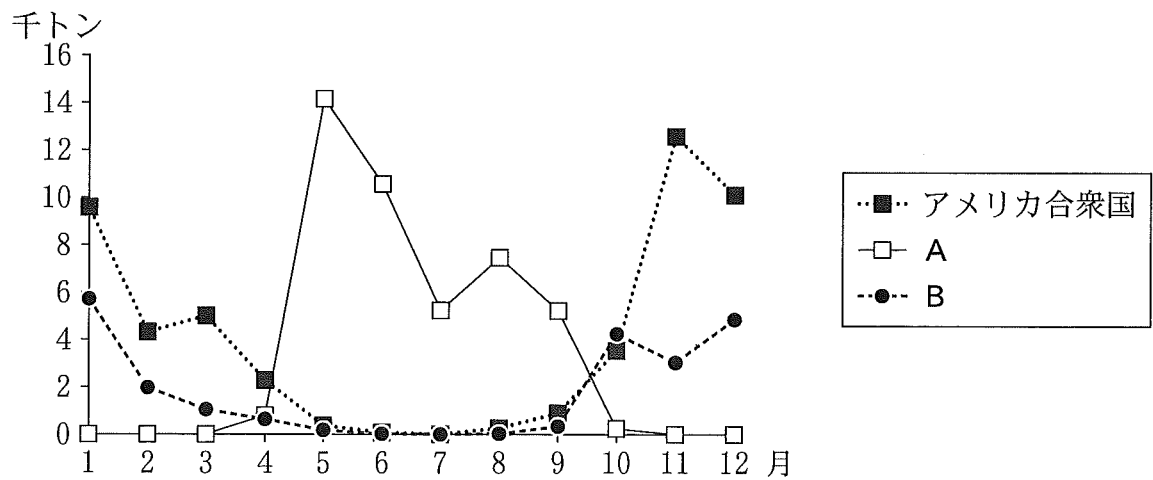
108

表 1

(単位：％)

2008～2010 年の平均値		2018～2020 年の平均値	
台湾	91.1	台湾	68.9
ホンコン	4.5	ホンコン	25.4
中国	1.4	タイ	3.0
タイ	1.4	ベトナム	1.0
インドネシア	0.4	シンガポール	0.8
その他	1.1	その他	0.9

中国の数値にはマカオを含まない。四捨五入のため、数値の合計は 100 ％にならない場合がある。農林水産物輸出入統計により作成。



2018～2020 年の平均値。一般社団法人青森県リンゴ輸出協会の資料により作成。

図 2

職 員 「青森県のリンゴは、全国の主要な卸売市場に出荷されています」

コウジ 「青森県のリンゴは輸出もされており、日本から輸出されるリンゴの約 9 割が青森県産と推計されると聞きました」

職 員 「2018～2020 年の日本のリンゴ輸出量は、2008～2010 年の約 1.4 倍に増えています」

サキホ 「表 1 をみると、台湾が主な輸出先ですね。輸出先の内訳をみると変化がありますね。東南アジア諸国への輸出量は、2008～2010 年と比べて、2018～2020 年は(サ)したと考えられます」

職 員 「図 2 の台湾の事例から分かるように、日本産リンゴの輸入量は時期によって変化します」

コウジ 「図 2 中の凡例(シ)が日本ですね」

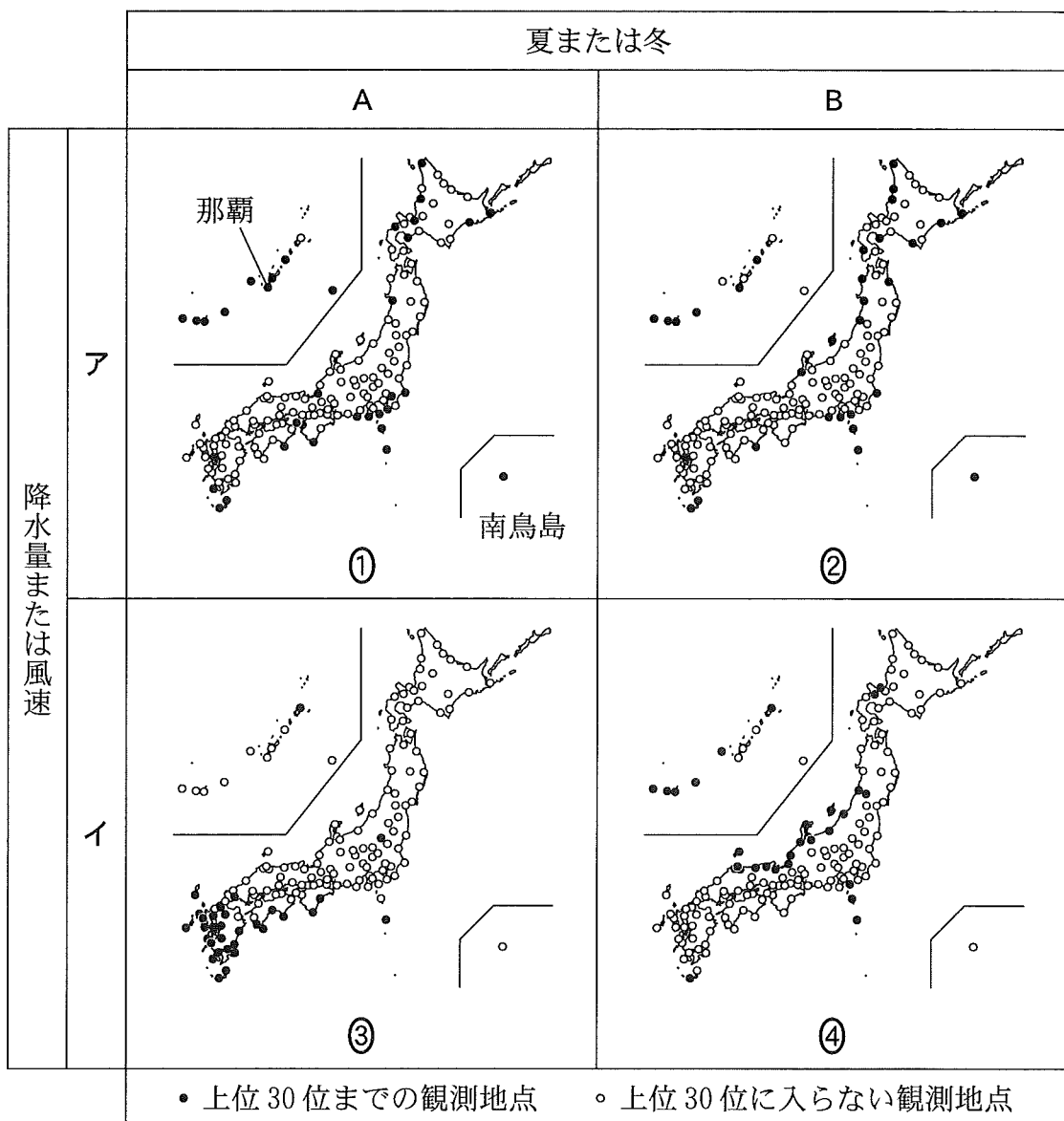
サキホ 「農林水産物を通じて、私たちの生活する地域は国内外の様々な地域と結びついていますね」

	①	②	③	④
サ	増加	増加	減少	減少
シ	A	B	A	B

第3問 日本の自然環境と防災に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(配点 13)

問1 降水量や風速は、海からの距離、気圧配置の季節性、地形などの影響を受ける。次の図1は、気象観測地点を示したものであり、AとBは夏(6～8月)と冬(12～2月)のいずれか、アとイは降水量と風速のいずれかである。夏の風速に該当するものを、図1中の①～④のうちから一つ選べ。

109

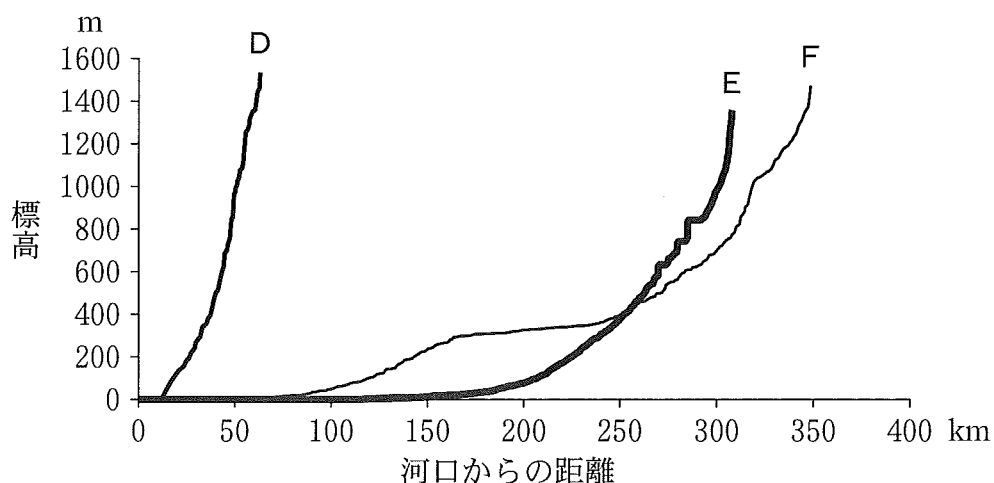


同順位が複数あり、上位30位までの観測地点数が30より多い場合がある。
1991～2020年の平均値。気象庁の資料により作成。

図1

問 2 河川は、侵食・運搬・堆積の作用により地形を形成する一方、流路が地形の影響を受けることもある。次の図 2 中の D～F は、日本のいくつかの河川の勾配を示したものである。また、後の文カ～クは、D～F のいずれかに関することがらについて述べたものである。D～F とカ～クとの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

110



国土数値情報などにより作成。

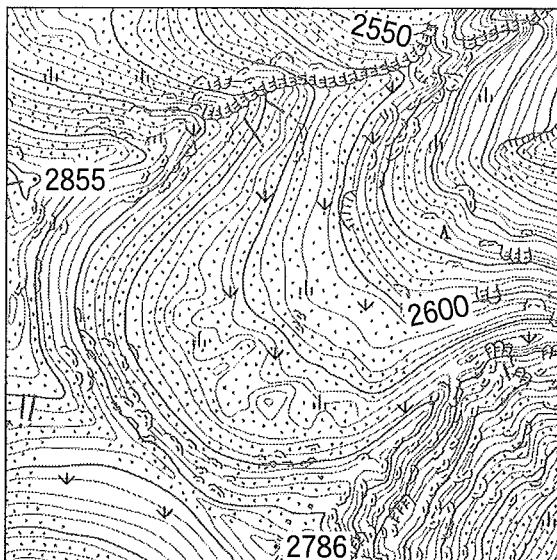
図 2

- カ 急峻な山岳地域を源流とし、侵食作用が卓越する区間の割合が大きい。
 キ 中流域から河口まで、堆積作用が卓越する区間が続く。
 ク 中流域の堆積作用が卓越する区間に流出し、その後再び山間部を流れる。

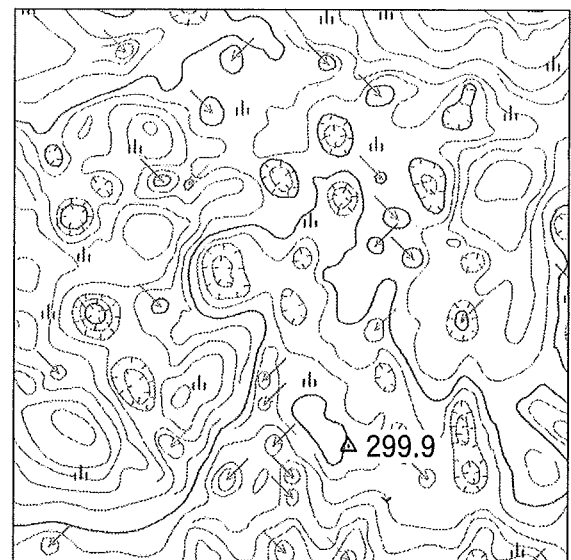
	①	②	③	④	⑤	⑥
D	カ	カ	キ	キ	ク	ク
E	キ	ク	カ	ク	カ	キ
F	ク	キ	ク	カ	キ	カ

問 3 次の図 3 中のサ～セは、日本の特徴的な地形を示したものである。また、後の文①～④は、サ～セのいずれかの地形について述べたものである。シについて述べた文として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。

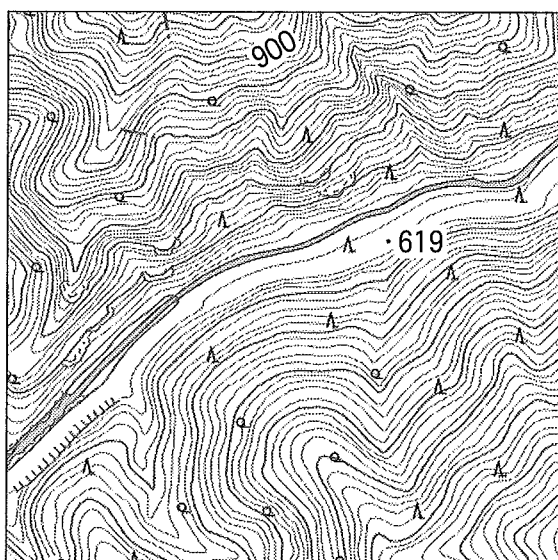
111



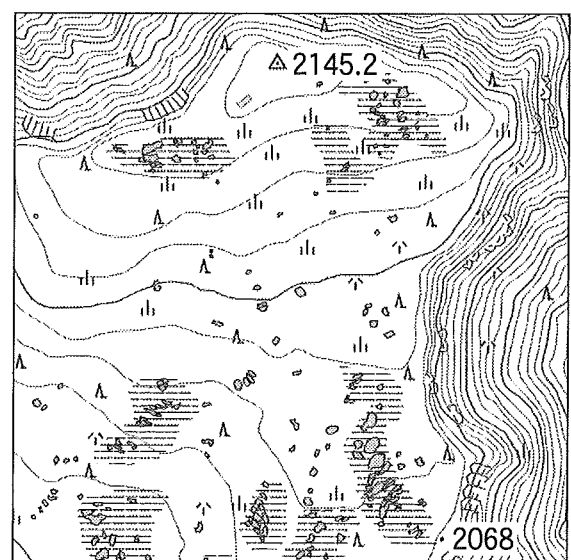
サ



シ



ス



セ

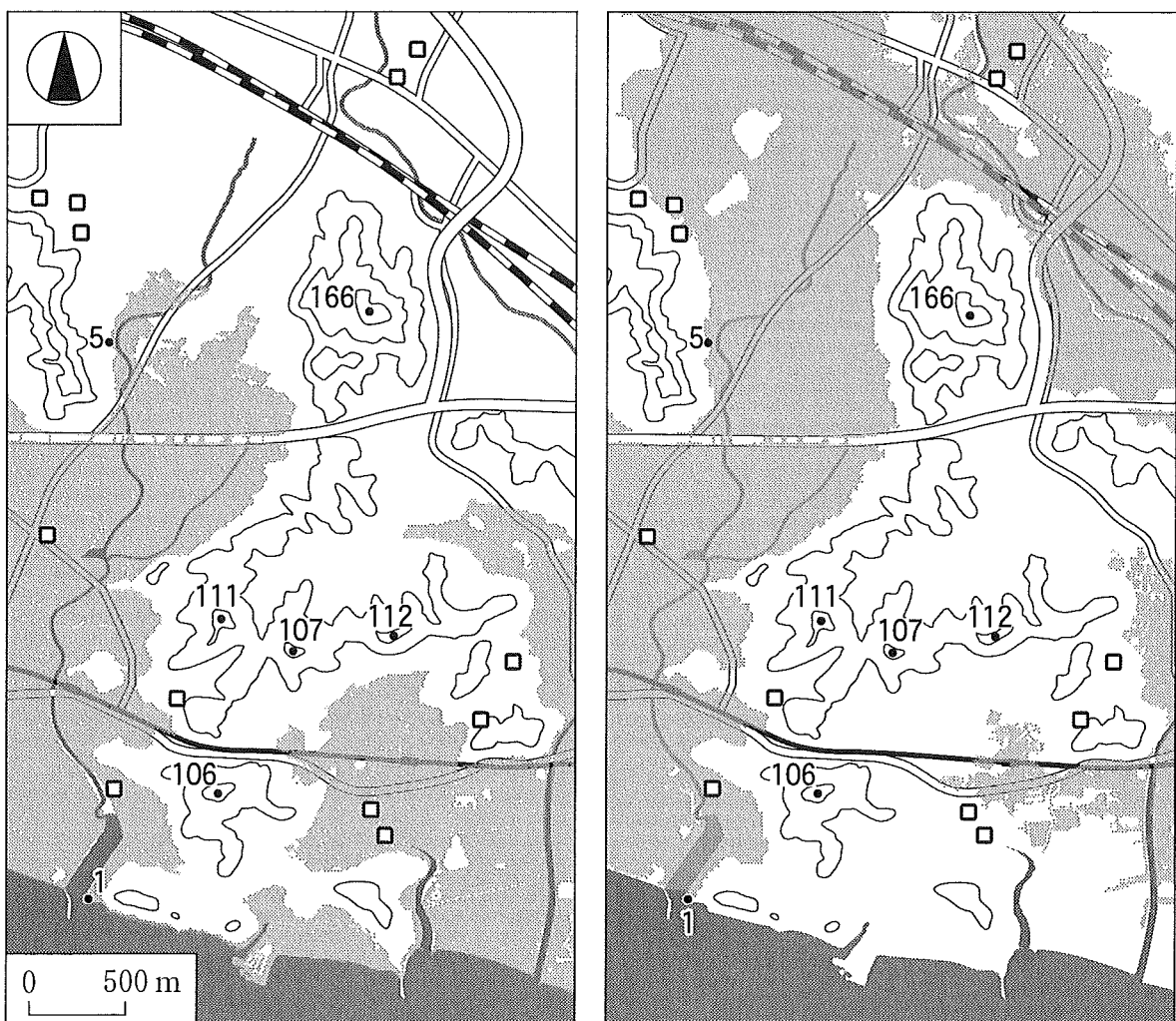
範囲はいずれも 1 km 四方。地理院地図により作成。

図 3

- ① 河川による山地の侵食や斜面崩壊により形成された，V 字状の谷である。
- ② 湿地が発達した緩斜面である。
- ③ 地下に雨水が浸透し，石灰岩を溶食して形成された地形である。
- ④ 氷河の流動によって山地の侵食が進んで形成された，スプーンでえぐられたような谷である。

問 4 自然災害時の避難施設は、災害の影響範囲や地形条件など様々な条件を組み合わせる必要がある。次の図4は、日本のある地域における避難施設と浸水想定区域を示したものであり、タとチは、洪水と高潮のいずれかである。また、後の図5は、条件a～cのいずれかを用いて図4中の避難施設をGISにより分析した結果である。洪水に該当する図と図5の条件との組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

112



タ

チ

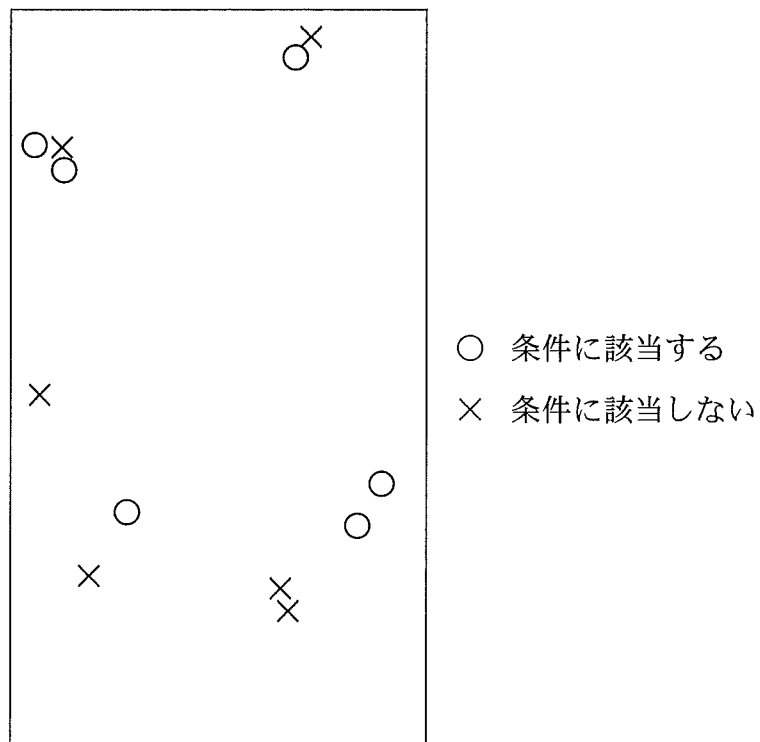
□ 避難施設 ■ 浸水想定区域 ■ 水域
 - - - 鉄道 - - - 道路

等高線の間隔は 50 m。地図上の数値は標高を示す。国土数値情報などにより作成。

図 4

条件

- a 避難施設がタの浸水想定区域外に立地する。
- b 避難施設がチの浸水想定区域外に立地する。
- c 条件 a と条件 b をともに満たす。



図の範囲は図 4 と同じ。

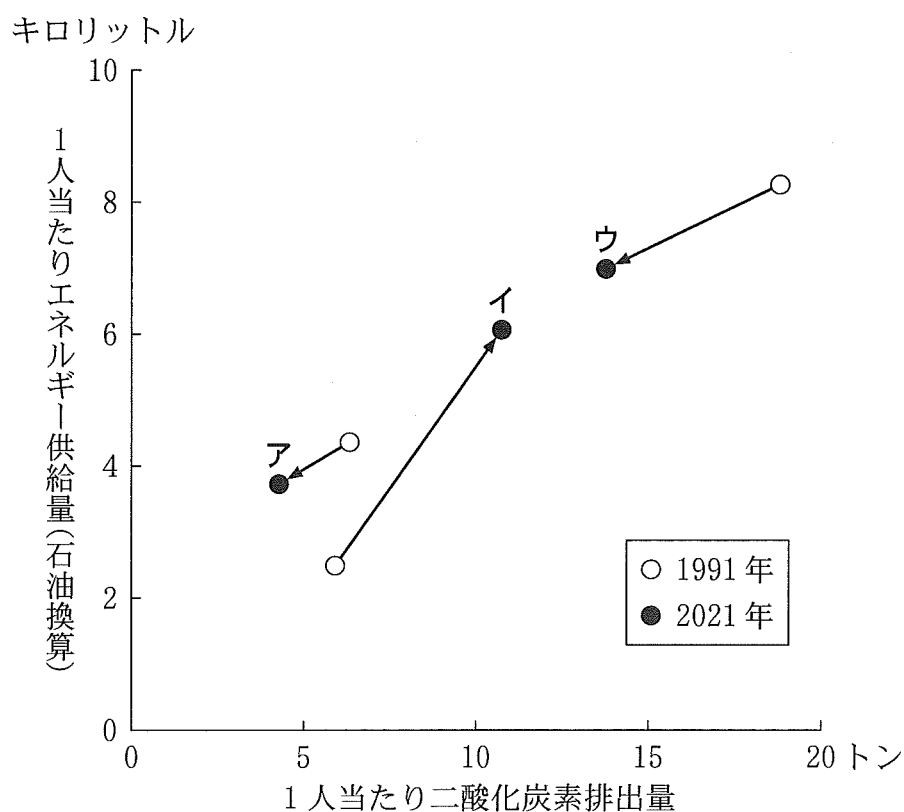
図 5

	①	②	③	④	⑤	⑥
洪水	タ	タ	タ	チ	チ	チ
条件	a	b	c	a	b	c

第4問 現代社会における地球的課題と国際協力に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(配点 12)

問1 地球温暖化にはエネルギーの消費や二酸化炭素の排出がかかわっている。次の図1中のア～ウは、アメリカ合衆国、韓国、フランスのいずれかである。国名とア～ウとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

113



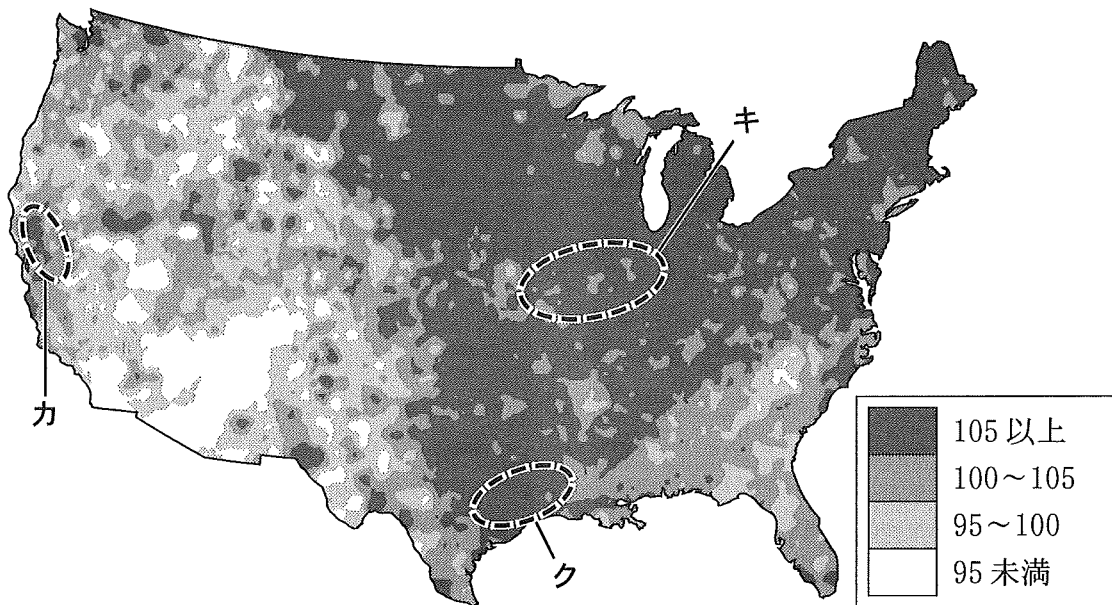
IEA の資料により作成。

図1

	①	②	③	④	⑤	⑥
アメリカ合衆国	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
韓国	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
フランス	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

問 2 地球温暖化の進行などによる降水量の変化は、農業生産に重大な影響を与える懸念がある。次の図 2 は、アメリカ合衆国本土における 1991 年から 2020 年の平均降水量について、1901 年から 2000 年の平均降水量を 100 とした指数で示したものである。図 2 に関することからについて述べた文章中の下線部①～④のうちから、適当でないものを一つ選べ。

114



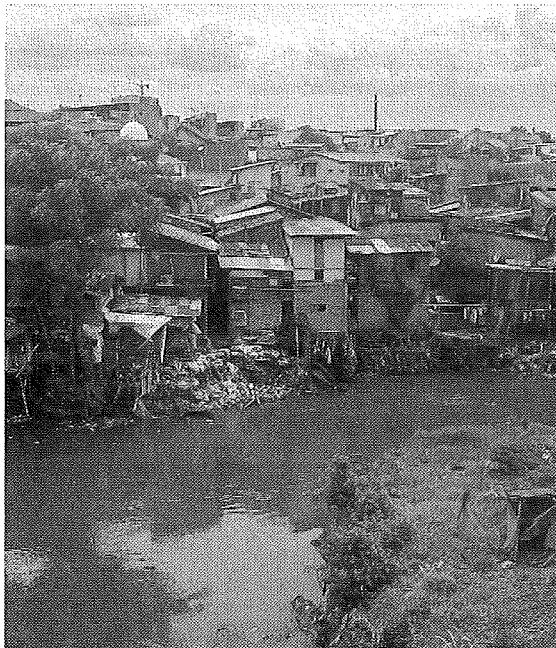
NOAA の資料により作成。

図 2

図 2 をみると、アメリカ合衆国本土における全体的な傾向として、①乾燥帯の地域では他地域より降水量の増加が著しいことが分かる。降水量の増加しているカ^{かんがい}の範囲では、②灌漑用水によって柑橘類や野菜が盛んに栽培されている。キ^{かんきつ}の範囲では、③大豆やトウモロコシなどの栽培が盛んで、飼料作物と家畜の飼育を組み合わせた農業がみられる。ク^{かんきつ}の範囲における降水量の変化は、④メキシコ湾に襲来する熱帯低気圧の数の増加傾向が一因である。農業の持続性を確保する上で、環境変化に合わせた適切な水利用のあり方が不可欠になっている。

問 3 次の写真 1 中の A と B は、発展途上国の大都市が直面する課題や対策の様子を撮影したものである。写真 1 に関することからについて述べた文章中の下線部 x と y の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

115



A



B

写真 1

写真 1 は、インドネシアのジャカルタの様子を撮影したものである。

A は、洪水の発生する可能性の高い、居住条件が不利な場所に形成されたスラムである。x インフラ整備が不十分なため、衛生的な水へのアクセスが課題である。

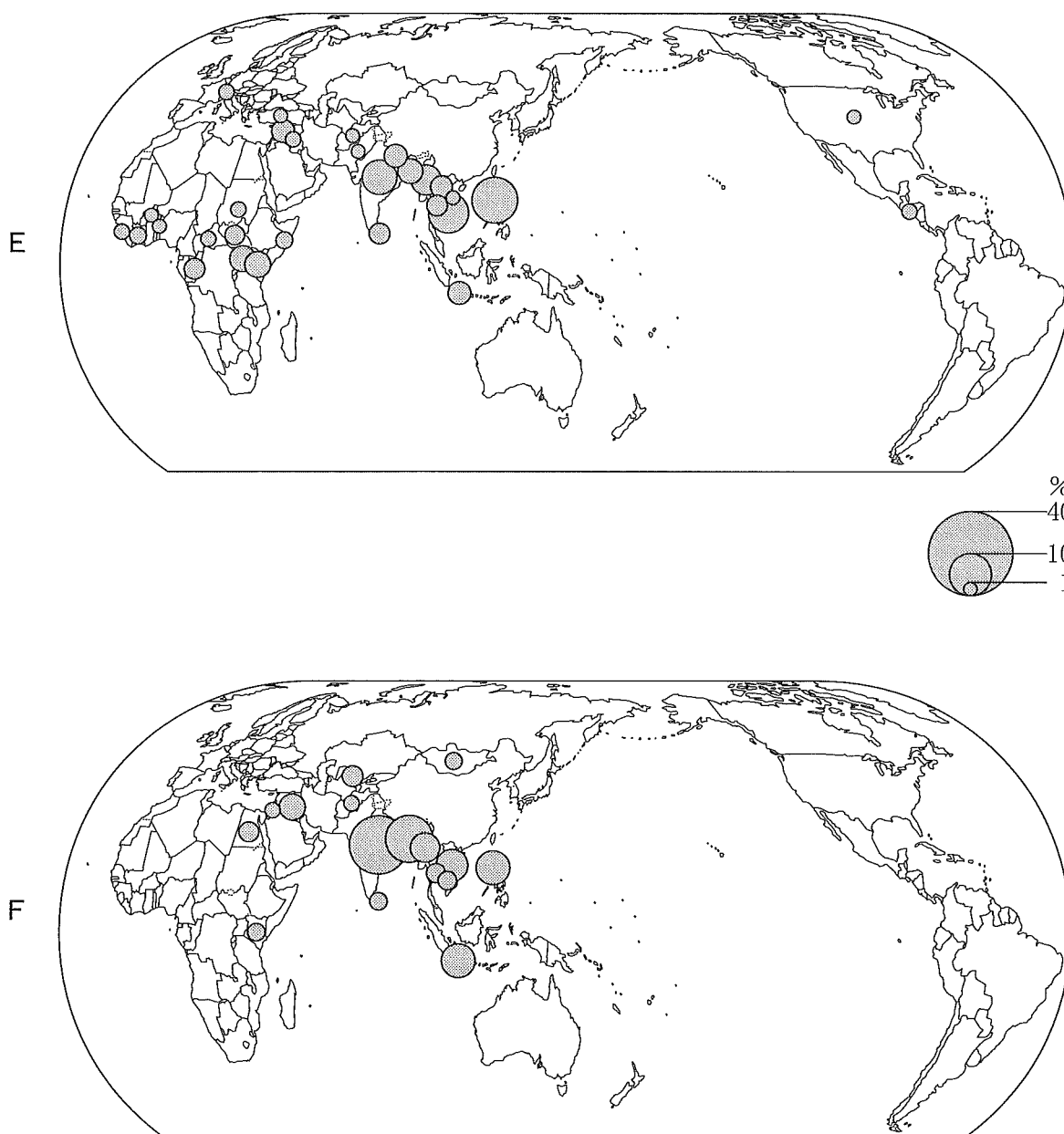
B は、都市中心部で発生する深刻な交通渋滞の様子である。交通渋滞が円滑な輸送を妨げ、排ガスによる大気汚染の問題を生じさせている。y バスの定時性や速達性の確保をめざして、バス専用レーンが導入された。

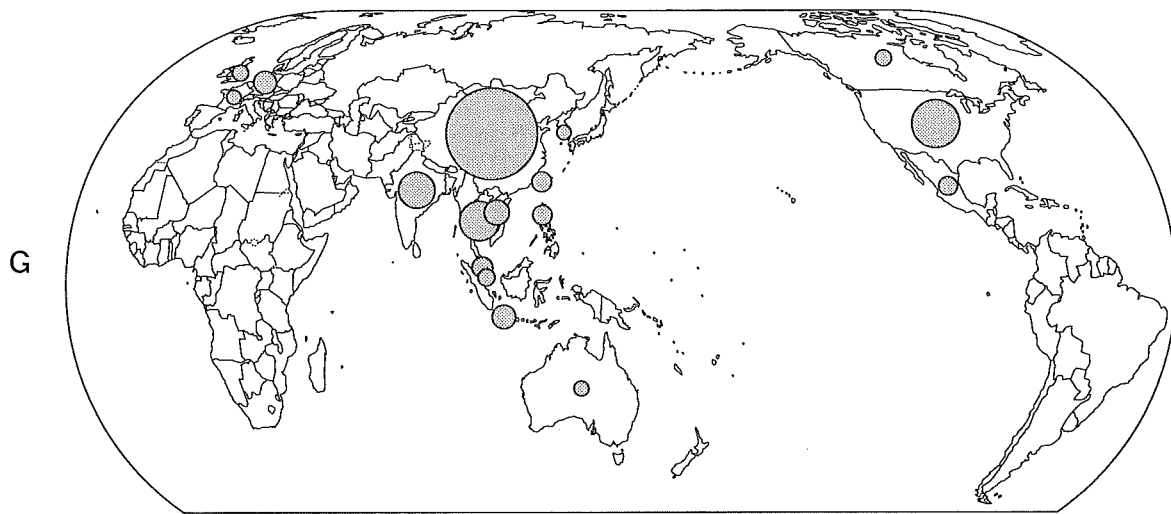
	①	②	③	④
x	正	正	誤	誤
y	正	誤	正	誤

問 4 日本の国際協力活動は、発展途上国に暮らす人々の生活や経済活動にかかわってきた。次の図 3 中の E ～ G は、海外における日系企業の拠点数、海外における日本の NGO 団体数*、日本の ODA 供与額のいずれかについて、世界全体に占める割合が 1 % 以上の国・地域とその割合を示したものである。指標名と E ～ G との正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

116

*当該の国・地域で国際協力を実施するもの。





中国の数値には台湾を含まない。

統計年次は、海外における日系企業の拠点数が2022年、海外における日本のNGO団体数が2021年、日本のODA供与額が2017～2021年の平均。

外務省の資料などにより作成。

図3

	①	②	③	④	⑤	⑥
海外における日系企業の拠点数	E	E	F	F	G	G
海外における日本のNGO団体数	F	G	E	G	E	F
日本のODA供与額	G	F	G	E	F	E